

上田市地域公共交通活性化・再生総合事業

事業期間 20年度

別所線車両へのラッピングにより上田らしさを演出することで、地元住民や観光客の「乗ってみたい」「乗るのが楽しい」などの意識を高め、別所線利用促進を図ることを目的として実施。

ラッピングのデザインは動植物等の中に真田氏の家紋「六文銭」が描かれているほか、新上田市発足3年目記念事業(合併記念事業)とのタイアップ事業として実施したことから、上田の玄関口であるJR上田駅に隣接するガスホルダーにも同じデザインのラッピングを施し、他地域からの訪問者にも別所線を含めた上田の歴史、別所線沿線に広がるふるさとの原風景をPRするものとなった。

【上田市公共交通活性化協議会】

上田市、長野県、上田バス(株)、千曲バス(株)、JRバス関東(株)、(社)長野県バス協会、しなの鉄道(株)、上田電鉄(株)、長野県タクシー協会、千曲バス(株)労働組合、道路管理者、上田警察署、丸子警察署、学識経験者、上田市自治会連合会、北陸信越運輸局、同長野支局、他

事業の概要(20年度)

※数字は事業費

平成19年度及び20年度に導入した1000系車両4編成中、2編成にラッピングを施すことで、別所線利用促進を図る。

(10,111千円)



画家の原田泰治氏デザインによるラッピング電車「自然と友だち1号」(写真左)「同 2号」(写真右)

デザインのコンセプトは、「自然と友だちー上田」で18種類の昆虫や動植物がシンボルとしてデザインされ、赤、黄、青のドアの色はそれぞれ、愛情、大地、環境を表している。

(写真右端は、同テーマデザインのガスホルダ)



20年度
導入
への
プロセス

地域のメッセージをアピール 別所線車両のラッピングは、新上田市発足3年目記念事業(合併記念事業)「日本の原風景が息づくまちー原田泰治の世界展 in 上田」とのタイアップ事業として実施した。

多方面への事前周知を徹底

記念事業・ラッピング電車のPRを連携して行い、報道への情報提供も含め、多方面への周知を図った。更に多くの人に利用して貰えるよう、「原田泰治の世界展in上田」展示会の入館券と別所線乗車券をセットにした企画切符を販売したほか、別所線hpでラッピング電車の運行予定表を掲載するなど、多面的なPRを展開した。



地域イベントとの連携による利用促進

「原田泰治の世界展in上田」の開催期間中では、小人の輸送人員は前年比11.2%の増となった。今後、継続利用促進策の検討を行っていく。

別所線小人輸送人員		単位:人			
	10月	11月	12月	1月	計
H19小人計	4,920	3,238	1,809	2,476	12,443
H20小人計	5,545	3,219	2,157	2,919	13,840
増減	12.7%	-0.6%	19.2%	17.9%	11.2%

他モードとの連携による利用促進

車両のラッピングのほかに、市街地循環バスの実証運行、駅前への鉄道・バスの路線図と時刻表を記載した乗継情報提供表示板、配布用バスマップの作成を行い、公共交通全体の利用促進を図った。

合併記念事業を契機に地域の
メッセージをアピール、
公共交通機関の活性化を実現。

大臣表彰を受賞

別所線存続支援及び利用促進を行ってきた「別所線再生支援協議会」では、本事業を含めた取り組みに対し、平成20年12月に国土交通大臣から「平成20年度交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰」を受賞。

利用者の増加(前年比0.3%)

様々な利用促進事業により、別所線輸送人員は、平成19年度1,249千人から平成20年度1,254千人と前年比0.3%増加となった。観光を含めた定期外利用者は増加しているものの、通勤・通学利用者が減少しているため、日常利用者を増加させることが今後の課題。

事業の
効果